

シヴァ、神聖なダンスの神

マーク・マクラフリンによる解説

シヴァ神とは誰でしょうか。私たちはどのようにシヴァ神を知ることができるのでしょうか。

シヴァ神は、インドにおいて深く愛され、尊敬されている神の姿です。神々の中で、彼は長いもつれた毛髪、そして、灰で覆われた薄青色の身体に動物の毛皮を着けていることで、見てすぐに分かります。彼の名前——シヴァ——は、まさしく「吉兆の」、「縁起の良い」、「恵み深い」、「好意的な」、そして「情け深い」を意味しています。彼はよく、吉兆なる者と呼ばれています。

シッダ・ヨーガの道では、シヴァ神は、自分自身の内なる大いなる自己として崇敬されています。シヴァはまた、シッダ・ヨーガのグルにより与えられる伝授のマントラの神でもあります。伝授のマントラは、オーム・ナマー・シヴァーヤ——「私はシヴァ、私自身の大いなる自己をたたえます」です。このマントラを繰り返すことにより、シヴァ神である平和と静寂の空間につながります。マントラは、その気づきを体現しているからです。マントラは、シヴァ神の音の形なのです。

シヴァ神は、神格としても、究極の原理としても崇拝されています。シヴァ神を敬う教典の伝統と哲学は、よく彼のことをパラマーシヴァ、至高なるシヴァと呼んでいます。これは、内在的かつ超越的である——宇宙になると同時に宇宙を超えて存在する——絶対なる意識としてのシヴァです。シヴァ神は、あまねくすべてのものを生み出す「それ」と考えられています。彼は、顕在するものの源であり、維持者であり、やがてその中に消滅する、「それ」なのです。

信奉者やヨーギたちは、シヴァ神をその多くの外観のうちの一つ、あるいは幾つかとして崇拝します。彼は、探究者たちを渴望する解放と神の知識へと導くアーディ・グル、原初の師です。

「シュリー・グル・ギター」の中で、彼の弟子であるデーヴィーとの会話の中に、彼の教えが啓示されるのを見ることができます。アーディ・グルとして、その無限の愛は、神の恩恵の力を授ける神との一体化を実現した精神の師の系譜を通して、流れ出ます。

シヴァ神は、宇宙をつかさどる荘厳なマハーデーヴァ、偉大なる神です。彼は深い瞑想に浸っている苦行者として描かれているマハーヨーギン、偉大なヨーギです。彼は大いなる実在の限られた理解に私たちを縛り付ける無知を取り除く、恐るべきルドラ、破壊者です。彼はまた、彼の妻パールヴァティーと二人の子どものガネーシャとカールッティケーヤと共に、ダルマにのつとつた家庭生活者として描かれています。そして、シヴァとシャクティ、男性性と女性性を含むアルダナーリーシュワラとしての姿があります。それは、形のない絶対なる者の不動の静的な神と、この顕在する世界を動かし維持する動的な力である女神としての姿です。

シヴァ神は慈悲深いアーシュトーシャ、「簡単に喜ぶ者」です。彼は、至福の源、幸福を与える者、そして、喜びの住みかであるシャンブでもあります。

最も重要なのは、シヴァ神が、大いなるアートマンだということです。それは、すべての創造物の本質的存在である至福に満ちた大いなる意識——すべてのものの大いなる自己、すべてのものの心——です。このことは、最も顕著にシヴァ・リングムに例示されています。シヴァ・リングムは、ほとんどのシヴァの寺院の中央に見られるシヴァ神の偶像という形を取らない象徴です。この円筒とそれが内側に埋め込まれた台座は、シヴァとシャクティの原理を、すべてに浸透するその力と切り離すことのできない形のない絶対なる者を、要約しています。

広く崇敬されているもう一つのシヴァ神の姿——南インドのチダムバラムで発現され崇拝された古典的な姿——があります。それが、ナタラージャ、つまりダンスの神です。それは最もよく知られているシヴァ神の目に見える姿の一つです。そして、それが非常に明確に彼の属性を伝えているために、それは彼を知るための素晴らしい方法といえます。

荘厳な美しさ、リズム、そしてバランスを備えて、シヴァ・ナタラージャの力強い像は、ニューヨーク州のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのアートマ・ニディとアヌグラハ両方のロビーの正面玄関と、インドのガネーシュプリーのグルデーヴ・シッダ・ピートウの庭に立っています。この像は恐らく、今までに芸術を通して表現されたものの中で、最も明瞭に神聖な活動を表しています。

シヴァ・ナタラージャの多面的で謎めいた姿は、しばしばアーナンダ・ターンダヴァ、彼の「至福のダンス」と呼ばれ、それによって神は、同時にそして途切れなく世界を存在させ、そしてその存在をなくしています。

シヴァ神のすべての形態の中で、ナタラージャの姿は恐らく神のダイナミックな側面を最も完全に示しています。この息をのむような姿をよく見ると、彼の神秘的な本質を深く理解することができます。そしてそうすることで、ある意味で、私たちはまた、この像は私たちが本当は何者なのかを表現していると学ぶようになります。

シヴァ・ナタラージャは、大いなる意識の神聖な戯れの終わりのない活動を示しています。手足を動かし、頭を前後に揺さぶり、そして長いもつれた髪を四方八方に広げ、シヴァ神は彼の五つの行為——創造、維持、消滅、秘匿、恩恵——を明らかにします。

この姿で神は、無知と忘れっぽさの象徴であるとても小さい悪魔、アプスマーラ・プルシャの上で踊っています。無知に拘束されず、シヴァはいつも自由で至福に満ちています。彼の右上の手にはダマル、小さい太鼓を持っています。彼はダマルから、マートリカー・シャクティの脈動を、全宇宙を形作るサンスクリット語のアルファベットに表されている音の振動を生み出します。これがシヴァの最初の行為、創造のダンスです。

彼の太鼓から発する脈動は、古代のリシたちが深い瞑想で体験し、それを発話の形で表現したのと全く同じ振動です。これらの言葉による表現は、その後、数々の神聖なヴェーダの詩、そして明らかにされたシャイヴァ・アーガマの教典となりました。

シヴァの右下の手はアバヤ・ムドラーをしていて、顕現された世界を維持する恐れのないさと祝福を授ける手ぶりです。これがシヴァの2番目の行為、維持のダンスです。

彼の左上の手は火を持っており、それによって、すべてのものがその循環の終わりに結局は焼き尽くされます。これがシヴァの3番目の行為、消滅のダンスです。

左下の腕は、心臓の上を横切り、それを覆い隠しています。純粋な大いなる意識としてのシヴァは、世界を顕現させながらも、私たちにとって彼はその中に隠されたままです。これがシヴァの4番目の行為、秘匿のダンスです。

シヴァの左下の手は、持ち上げた左足を指しています。これは、私たちを限られた理解から解放する恩恵の流れを表します。なぜなら、秘匿の力を発揮すると同時に、シヴァはまた、大いなる実在の本質として自分自身を明らかにする力を手ほどきするのです。これが、シヴァの5番目で最後の行為です。それは、世俗的な存在の束縛から私たちを解放し、至高なる意識、大いなる自己としての本質に私たちを目覚めさせる、悟りを開いたグルによって体現されています。5番目の行為が、シヴァの恩恵のダンスです。

そのしぐさを通して、雄大なシヴァ・ナタラージャの姿は、存在のまさに源——至高なる意識、すべての偉大な大いなる自己——を雄弁に表しています。ナタラージャが私たちに与える秘伝は何でしょうか。シヴァ神は私たちに何を呼び掛けているのでしょうか。彼が精神の探究者たちに分け与えたいメッセージとは何でしょうか。

シヴァ・ナタラージャをさらに詳しく見てみると、シヴァの顔が途切れることのない静けさの表情を示していることに気づきます。シヴァの目は完全に内側を向いているように見え、まるで彼の最奥の大いなる自己の静けさを熟視しているかのようです。容貌は静かで、身ぶりや動きもなく、穏やかで満ち足りたほほ笑みが彼の顔全体に浮かんでいます。シヴァは、その超越した内なる境地を内側に見詰めると同時に、宇宙として広がる彼自身のダイナミックなエネルギーを見詰めています。彼の表情は、そこからすべてが生まれる場所の静寂を映し出し、私たちに、シヴァ・リンガムとして具現された、シャクティがそこからすべての顕現をもたらす、不動の黄金の光の柱を思い出させます。

ナタラージャとしての神は、神の存在から生まれるこの宇宙のダンス全体が、完全な静寂の地点から展開することを認識するよう私たちに呼び掛けます。シヴァの最奥の存在の沈黙と平和は、彼の顔の静けさによって表されています。彼の周りでは、この静かな大いなる意識の地点から、宇宙全体が湧き上がり顕現したのです。

これが逆説のように——この創造のダンスが完全な静寂から始まるという逆説のように——思えるなら、確かにそうです。シヴァは逆説の具現として知られています。彼には形がなく、しかし形を持っています。彼は創造者でもあり、破壊者でもあります。彼は隠し、同時に明らかにします。その宇宙のダンスにおいて、シヴァは至高なる無の静けさであり、そして彼のシャクティは、この静けさから現れる活力に満ちた動きなのです。

宇宙の踊り手としてのシヴァに驚嘆する時、私たちは自分自身に問い掛けるかもしれません。私たちは彼の宇宙のダンスとどのように関係しているのだろうか。私たち一人一人はどのようにそれをアイデンティティーとすることができるのだろうか。

少しの間、小さな子どもの頃からこの現在の瞬間までの、あなたの人生の道筋を考えてみてください。あなたが体験してきた変化を通して、何が常に一定していましたか。あなたの存在の

最も深い核心には、はかなくうつろいやすいあなたの世俗的な存在のすべてを、揺るぎなく目撃している何かがあります。その変わることのない側面が、あなたの気づき、純粋な気づきです。これが、構築されたアイデンティティーのすべての層を超えた、あなたの最も深い核心です。精神の師たちは、この気づきがあるあなたの真のアイデンティティー——大いなる自己——だと教えます。大いなる自己である静寂の地点からダンスは展開し、あなたのこの世界の体験として形を成すのです。

南インドのシャイヴァの教典『ティルマンティラム』の中で、8世紀の偉大なタミール人の賢人ティルムーラルは歌っています。

私は自分自身の内側に神聖なダンスを探し、見だし、
足は鈴の音がするアングレットで飾られ、
口は歌を歌い、四肢は動き、
おお、何と私の苦しみが消えたことか。¹

ティルムーラルは私たちに、神聖なダンスは私たちの内側にあると語っています。私たちはシヴァの宇宙のダンス——私たちの宇宙を創造し、維持し、消滅させるダンス——なのです。カシミールの非二元性シャイヴィズムを教えた賢人たちは、これをスワタントラ、「自由」と呼びます。サンスクリット語の接頭辞スワは「自己」を意味し、動詞語根タンは「広がる」「拡張する」または「織る」という意味です。私たちの世界は自己が織り成すスワタントラで、大いなる意識の妨げられることのない自由意志で創造されています。このシヴァのダンスである自由は、私たち自身の心の核心の静けさから脈動して生まれます。この完全な自由の中に、シヴォーハム、「私はシヴァである」の体験があるのです。

シヴァの至福に満ちた顔に注目し続けると、神の慈悲深いまなざしが私たちのマインドを落ち着かせ始めます…私たちに思考を超えさせ、マインドの活動を越えさせ、心の内側深くにある

静寂の地点へと導きます。ここで、私たちは完璧な休息を見いだします。完全な自由。穏やかな静けさ。

この静かな場所、私たち自身の心の中にあるこの静寂な場所こそ、偉大な賢人たちが私たちに出会い、自分のものにすることを勧めるものです。

シヴァ神のアイデンティティーを表す多くの神聖な属性の中で、賢人たちが最も高い敬意を持つものがあり、それがマントラとしてのシヴァです。マントラ、オーム・ナマー・シヴァーヤの音節は、それぞれがシヴァ自身のシャクティの表現です。実際、賢人ティルムールは、シヴァの宇宙のダンスの音がまさにナマー・シヴァーヤの5音節に反映されていると、私たちに明らかにしています。創造の太鼓は音節シです。維持のアバヤ・ムドラーは音節ヴァーです。消滅の火はヤです。私たちの限界を破壊する足はナです。そして、持ち上げた恩恵の足は音節マです。オーム・ナマー・シヴァーヤ…

シヴァ・ナタラージャは、マントラ、オーム・ナマー・シヴァーヤなのです。

マントラを繰り返す時、それに全身をささげ、その音楽的な振動に没頭してください——アーナンダ・ターンダヴァ、シヴァ神の至福のダンスに浸ってください。

シヴァ神の宇宙のダンスの姿が、慈悲深い神のまなざしが常にあなたに注がれていること、シヴァ神の至福に満ちた顔が常にあなたの内側にあり、あなた自身の心の静寂の地点から輝いていることを、いつもあなたに思い出させてくれますように。



¹ *Tirumantiram*, 2670; trans. Paul Younger, *The Home of Dancing Śivan: The Traditions of the Hindu Temple in Citamparam* (New York: Oxford U. Press, 1995), p. 193.